

水害検証特別議録

甲・丙・丁	大分類 F	中分類 01	委員会		
	(永)	10	5	3	1
議長	事務局長	局長補佐	調査係長	会議係長	係

【第11回】

開会	平成28年2月15日(月)午前10:00			閉会	同 午前11:55	
場所	大会議室					
出席委員	①金子晃久 ②関優嗣 ③遠藤章江 ④大澤清(早退) ⑤中島亨一 ⑥中村安雄 ⑦中島博美 ⑧寺田洋 ⑩堀越道男 ⑪茂田信三(遅刻)					
欠席委員	水野昇					
委員外議員	なし					
案件等説明のため出席した者	執行部 須藤市民生活部長 小林都市建設部長 斎藤安全安心課長 石塚建設課長					
事務局員	齊藤事務局長, 古谷補佐, 安田係長, 倉金書記					
署名	委員長 中村安雄	担当書記 同上				
案件						

開 会 10時〇〇分

○委員長 おはようございます。検証委員会大変ご苦労様でございます。予定では、本来であれば5日に検証委員会をやろうということでありました。しかしながら、皆さんの希望どおりにいかなかつたということもありまして、国交省下館河川事務所の方からお話がありまして、国交省が報告しなければならないような内容をきちんと提示をする。それに基づいて質疑をするというような話になりましたので、その具体的な内容については、協議をして申請をした訳ではございません。口頭で連絡したところ、そういう回答が戻ってきたということでありますので、今回は冒頭その内容を確認して、若宮戸の無堤防の問題や上三坂の堤防の決壊、これらについてちゃんとした内容で要望して来ていただくという形をとるということになりますので、前回の5日は延期をさせていただいたということでございます。今日その話を冒頭決めていただいて、それから執行部おいでになっていますから、この前のまだまだ残っている部分がございます。それらに対しての説明質疑という形をとっていきたいと思いますので、そのようにご理解をいただきたいというふうに思います。今日見えてないお二方。欠席ではないんですが、茂田委員については少し遅れますと水野委員の方はまだ話を聞いておりませんので、連絡あったわけではないんですね。ということだそうです。要望事項をですね、茂田委員が来てからの方がいいですかどうかわからないですが、どうですか。議長、堀越委員についても無堤防の所の問題、若宮戸の問題ですね。そういうことのご意見もあるようですから、一番大事なところはその辺だと思うんですね。堤防を早めに作ってくれという要望があったにも関わらず、それができなかつた。ということにおいて水害が発生して溢水してしまったというようなことでありますので、そういったことの重大さについても問題指摘するところにも値していくのかなというふうに思っておりますが、とにかくその国交省に来ていただくということであれば、内容的な面を要望するにあたっては、きちんと整理をしてお願いするという形になりますので、ご意見を皆さんからいただいて、まとめてそのことをお願いする形をとっていきたいと思いますので、どれもこれもすべて前もって内容を要望するということじゃなくてもいいんじゃないかとは思いますが、だいたい核になる部分だけはそういう形で要望していきたいと思ひますので…。どうぞ発言してください。

○堀越委員 今言われたように若宮戸の無堤防の問題というのは、やはり今回の水害のおおもとになったわけですよね。真っ先に溢水、そして決壊が起きているわけですね。それについては議会でも、それから地元住民は何回も指摘し、要求しておりました。それでその対策として、非常に軟な土嚢を二段ぐらい積んだだけで、いつでも崩れるようにしたのかな。まあようするに強さは何も補強していないというだけの話なんですね。ですから、きた時は大変ですよというのは、地元住民、それから隣の坂東市長の吉原市長も随分追求していた話なんですね。その後も形だけやつただけで、それは自然堤防だったということで…。要するに高さもね、低いところに合わせたつてわけですね。だから、いつでも水がきたら入ってくださいよって言わんばかりの姿勢にあつたということと、それから鬼怒川の堤防の整備率がはじめて調べて分かつた

ということで、17.4%というのが出てきたんですが、11月4日の国土交通省の説明でも43%というのを真っ先に言ったんですね。それは栃木県の62.5%と茨城県の17.4%を割った数なんですね。そういう形でやってますよっていうポーズをしていると。しかし、全体的に見るとあれだけの一級河川の鬼怒川の、しかも茨城県側の鬼怒川の堤防率の低さというのは、全国でも稀有なくらい、こんなのはおかしいという指摘があるところですよね。そういうものをなぜ放置していたのかということは、全体的に言える話じゃないのかと。あとその責任姿勢をね。これは福岡で国土交通省の職員が言ったわけなんですが、調査をしに来て10日の4時の段階で、海上保安庁が救助作戦をやったんですね。海上保安庁がなぜ来たのかということなんですが、国土交通省は若宮戸はいつでも切れるということを認識していたということなんだろうということなんですね。そういうこともあって、国土交通省がどういうふうな伝え方をし、どういうふうな対策をとって見ていたのかということが一番の狙い所かなと思い、聞きたいところかなと。

○金子委員 4時っていうのは、朝の4時ですか。

○堀越委員 いや、夕方。夕方4時ですね。

○委員長 いま堀越委員から話がありましたように、若宮戸地区については異常なくらい要望にも応えることができず、しかも茨城県の改修率があまりにも低いと。17.4%というような数字が出ているようありますが、本来であれば堤防は下流から改修していくという決まりがあるにもかかわらずですね、上流は70パーセント近いということで、下流と全く逆転しているとはつきり証明された。これも今回、決壊してはじめて出てきたんですよね。それまでは全く分からなかつたということですが、そういったことであれば当然決壊するのが目に見えると、大雨が来れば。そういうふうなことで聞き取りをしたいと。国の方の考え方はどうなんだと。そういったことが第一点ですね。それから私の方からは、ダムとのかかわりも今回は因果関係があったようですね。ダムの放流が重なったとかね。異常に水が増水してきたことも確かにありますよね。なんでこんなに急に増えるんだろうって思ったのは、やはり上流の放流とのかかわりがあったのかどうか。これは、放流した記録が残ってだらうからね。今、堀越委員の方からはそういったことで、国交省に来ていただく内容としては若宮戸等についての質問をしたいということでございます。その他、皆さんからご意見を出してください。いかがですか。

○金子委員 三坂に関しまして議会等で再三やっていたんですけども、再確認として検証として、三坂決壊付近の川表にて土砂を取ったと、それに関しまして国交省の検証委員会では、その影響は直接なものではないというふうなことでしたが、それに関しましてまでいろいろな意見がありますので、その点に関しましても直接聞いてみたいと思っております。お願いいいたします。川表掘削の因果に関して。

○委員長 河川敷の土砂を掘削して、他に運び去ったということが…

○金子委員 堤防をダンプとか乗り入れたところに対しての全くそこは関係なかつたのかというところをもう一度お聞きしたいと思ってます。

○委員長 地元の皆さんには、ここは堤防がもともと低いんだと。低いところに来て砂

の部分が多いとか、そんなふうな意見が来ましたよね。そこが二点目ですね。

○金子委員 もう一点すみません。あとは常総市内に限らず、いろいろな所でパイピング現象が起こっている中で、このパイピングに対しての今後の処置とパイピングをしてしまった所は、強度的に低下してないのかというのを確認したいというふうに考えています。

○委員長 パイピングはあちこち随分、10箇所近い数であったんじやないかと、恐らくね。そういうことは確かにありましたね。

○金子委員 その意見をお願いします。

○委員長 堤防の強度でございますね。はい、中村委員。

○中村委員 上三坂の方のことなんんですけど。2月7日の日曜日に市長と三坂の皆さんと金子委員、私、神達さん、飯田さんが同席してお話を聞いたときに、その中の方が2013年に国がシミュレーションのハザードマップでは、もう常総市内は水没するというのが出ていたということを2人の方がおっしゃったので、それを市で把握していたかどうか。そして金子委員が国交省にも聞くということなんで、国はこれを2013年に発表していたのかどうかと言うことを…。発表していたか、それを市に伝えていたか、市は把握していたか。

○委員長 いま皆さんからご意見聞いていることは、国交省に来てもらうための意見を皆さんからお聞きしているわけですね。ここで部長にお聞きするのは今日のこの会議の中で聞いていただければよろしいと思いますので。

○中村委員 じゃあ、これ国交省2013年…。

○委員長 2013年のハザードマップですか。

○中村委員 ここが水没シミュレーションを国が発表したっていうんだけど、市は知らなかつたのかなということを…。

○委員長 これは市の方に聞かなければならぬことだから。

○中村委員 まず国で発表しているのかどうかということを。

○委員長 それは国じやなきやわからない。それは三番目に入れてください。

○中村委員 2013年のシミュレーション。

○委員長 発表したんだということは誰が聞いているんですか。

○中村委員 2人の方がおっしゃったんです。

○委員長 その2人の方っていうのは、そちらに通じる人でしょう、国の方に。言つた人は。

○中村委員 決壊して家が流失したので、いろいろな方からお話を聞いているんじゃないですか。

○委員長 そういうことが、ハザードマップがあったにもかかわらず…

○中村委員 2013年に発表したのかどうかということを、はっきりと2013年と2人の方が言ってらっしゃるので。

○委員長 それも質問の内容に入れてください。

○堀越委員 いいですか。鬼怒川の新八間堀川の機場の問題で、10日の1時から2時まで閉めてポンプを切ったということの経過と、何故それだけ時間帯をおいたの

かと。要するに12時45分に三坂が決壊したわけですね。私達も土手にいたから見ていたんだけれども、あつという間に10センチ下がるんですね。その後どんどん下がっていったんですよ。うちの方でポンプ機場とか固めていた人達は、随分下がったという話で、申し訳ないけれども東側が切れたんで、西の我々としてはひと安心ということになったんですよね。その時にどんどん下がってる。そういう時間帯に1時から22時の間にポンプを止めたと。機場、ポンプも汲み出さないというその判断ですね。何故そんな時間帯やったのかということ。1時から22時まで止まってます。2時半ね。

○委員長 夜の10時までっていう意味だね。何故ポンプを止めたのかと。排水機場ですね。

○堀越委員 排水機場ですね。国土交通省の管轄ですね。

○遠藤委員 ちょっとといいですか。排水機場じゃなくて、八間の水をポンプアップしていたと聞いたんですけど、違うんですか。機場から流してポンプアップしていたということなんですよね。

○堀越委員 ポンプやったのはその後だな。

○遠藤委員 その後なんですか。

○堀越委員 夜だと思う。夜中にやったと。

○遠藤委員 あの機場のポンプでポンプアップして、鬼怒川に排水していたんですよね。そういうことですよね。

○堀越委員 そう、止めたでしょ。その点。

○遠藤委員 私もそれは思うんですけども、本当に切れたのは、国交省発表よりもだいぶ5分かそれくらい早いんですよね。

○委員長 三坂の方の話だね。

○遠藤委員 中村博美委員の証言によると、もうちょっと若干早かったっていうのがあって、本当に堀越委員が言ったように水位がみるみる下がっていったと。下がっていった段階で、危険水位に入っているからということで、ポンプアップするのを止めたのかどうか。その問題なんですよ。だから、昼の1時すぎ頃から急激に八間掘の水が逆流して住宅地に流入していったと、樋管が開いたままなんですね。ですから、それをやめた時点でどういう連絡を取ったかなんですよ。県と市に。あそこは鬼怒川寄りは国だと、そっちからは県だと。そういう罪の擦りあいみたいな感じの証言しかしてないんですよね。ですから、その辺の連絡と管理というのをどういうふうに今までやってきたのかを聞きたいんですよ。ポンプで排水をやめた時点で、逆に言うと、末端の水海道排水機場から小貝川にポンプ3台で排水する必要があったろうし。だから、その連帶を今までどういうふうにとってきたかを聞きたいんですよね。

○委員長 国交省管理の八間ですよね。御城橋の鬼怒川寄りについては、国交省が管理しているんだということが分かったんですが、これは今回水害があって、初めて聞き取りをしたので、こういった内容が明確になってきたわけですね。今、小貝川の話も出ましたが、八間小貝については江連八間の管理だったということも今回、私達は初めて…。そうだと思うんですがどうですか、わかつてたんですか、江連八間は。

○遠藤委員 それは調べて分かったんですけども。結局、江連八間の証言では、私達は農業排水路としての認識しかなかったとの一点張りでしょ。そうすると市民の安全安心を守るって観点では、いろいろな契約をしてると、お金もいっていると。そういうことに関して、市も国も県も含めて、その責任をどういうふうに分担していくのということを今後については聞きたい。

○委員長 責任のない部分でみんな委託だとか管理をやっているとしたら、そんな無責任なじや周りの市民は納得できない。

○遠藤委員 江連八間にしてみれば、そんな重要なものを担うならば、私達県に返したいですよっていうようなことをおっしゃっていましたよね。そうなると今後ね、一級河川の末端の排水機場の管理を江連八間土地改良区にやらせておいていいのかという問題も含めて、国と県の考えを聞きたいです。

○委員長 とにかくその報告そのものが、3台あって1台しか動かなかつたとか。動かしたのは、20数年前に一度動かしたことがあったんだというような答弁がありましたが、そういったことが現実だったわけですから。各排水機場等の管理運営の責任問題ですよね、そうなってくると。それ4番目の話で。

○遠藤委員 だから現実としては、江連八間が責任があるんだと一ヵ所に押し付けられる問題では絶対にないと思うんです。その辺の認識を国や県の、市も含めてですね。自分の立場でどういうふうに考えているのかを聞きたいです。あと、もう一点、今後のことに関して別に誰の責任を追及するっていうことではないんです。今後タイムライン等を作っていくので非常に重要なことなんんですけども、国と県と市の情報伝達がどのようにされていたかっていうのを時系列できちんと公開してもらいたいんです。というのは、10日の午前2時には、この庁舎も含めて水没するっていうのは連絡があったと、国からあったんだと国交省から。ところが常総市側は受けてないんだと。ここが食い違っているんですね、検証の中で。だからこれは一方通行なんで、やはり両方の情報をすり合わせなくてはならない、この検証委員会の中でね。それで、どちらかが隠していればこれは大変ですよ、やっぱり。これはすり合わせなくてはならない、絶対に。情報伝達は、FAXでやったり、メールでやったりしていると思うんですね。ですからFAXや電話、メール、これを含めてすべて常総市に対して、県に対して、国交省が流した情報を明らかにしてもらいたい。逆に県からは、常総市に直接なのか、県を通じてなのか分からないんですけども、メール、FAX、電話も含めて流れてきた情報を明らかにしていただきたい。これをしっかりとすり合わせていかないと、第二、第三の災害が起った時のタイムラインを作ることは絶対にできないですから。これはすり合わせを絶対しなくてはだめ。

○委員長 連絡網の徹底ね。はい、連絡網の徹底をどういった形でされてきたかということですよね。

○寺田委員 繰り返しになっちゃうかもしれないんですけど、氾濫シミュレーションなんですが、若宮戸のは見ているっていうか出ていると思うんですが、その他にも鬼怒川で氾濫シミュレーションがあったら、他の地区ですね。他の場所からの氾濫シミュレーション。できれば、関係ないかもしれませんのが小貝川での氾濫シミュレー

ヨンも常総市に関することがあれば。

○委員長 過去にありましたよね。昭和60年の頃の話でね。その話ですか。

○寺田委員 ついでなので、一応今回でももしあれば。

○委員長 小貝川は、あの大水害があつて豊田の方が決壊して、それで小貝川を改修したと、改修したんですよね。鬼怒川も今回決壊したから600億もの予算がついたわけですから、決壊しなければ国は手を出さないですよね。無責任極まりない話だけれども。

○寺田委員 鬼怒川だけでも、今のところ見たのは若宮戸の氾濫シミュレーションしか見ていないんですよね。もしそれが、坂手地区の氾濫シミュレーションがあったかもしれないし、もっと上流でも下流でもあったかもしれないし、鬼怒川に関して氾濫シミュレーションが他の地区でもあったかどうかっていうことを知りたいっていうのと。

○委員長 小貝川って言ったけれども、鬼怒川もって意味ですか。

○寺田委員 小貝川がだめなら、ついでだから鬼怒川の氾濫シミュレーションも見ておこうと思つただけで、鬼怒川の他の地区的氾濫シミュレーション。あと、この間遠藤委員がおっしゃった決壊してからの氾濫シミュレーションも私はあまり見ていないので。

○委員長 そのシミュレーションがあればと。

○寺田委員 もしですね、もし若宮戸しかなかつたというのなら、若宮戸もろに分かっていたってことですよ。決壊するの分かっているということですね。もし、一つしかないっていうことはもうそこは決壊ということは分かってるので。

○中村委員 決壊じゃなくて越水。

○寺田委員 越水ね。だから、それだけ強い認識を持っていたかどうかっていうことも知りたいですよね。当然、質問したい。

○委員長 若宮戸はね、これはもうそういうことになりかねない一番危険な箇所。そういうこと言われていますよね。いかがですか、中島委員。国交省に来ていただくために、提出する質問状の内容を皆さんから聞いているわけですから、何かあれば。

○中島委員 だいたい同じようなことです。

○委員長 いいですか、はい。ということで、今後この内容を伝えていただくということになりますが、国交省の都合で日程が変わりますので、それはお任せいただきてもよろしいでしょうか。その他ないので。今後、議会が入ってきますから、日程についてはこちらで相手方と話し合ってください。あと、今は国交省だけなんですが、その他は、江連八間はもう文書できているようですが、江連八間の方は何か申し上げたいようなことも一部あるように私は耳にしたんですが。議員の皆様からの意見は聞いても、私達の意見は聞いていただいてないようなことも言われたような感じしたものですから。そういうことであれば、江連八間も納得いかないところもたくさんありますね。確かに淡水防除事業だということでいけば、水田の方を中心に考えている土地改良区ですから、水害に関しては、それほどに重視してなかつたかもしれない。確かにそうだと思いますね、言われますと。

○大澤委員 一点すみません。鬼怒川緊急対策プロジェクト関連でお話しさるならば、八間掘の改修工事について約23億円を投入して改修工事をやることなんですが、その改修箇所の問題で、地図で判断するならば決壊したところだけなんですね。はたして、決壊した場所を補強するだけでいいものかどうかということを技術的なものを含めて確認したいです。

○委員長 八間の約23億円の予算の中で改修される状況をですね、どういう形で八間掘を改修していくかどうか。23億円ですから、決壊したところだけじゃないですね。大きい金額ですから。だからこれは、どういうふうな内容で改修されるか。これは県ですよね、この八間はね。それはどうですか、市役所の方からすれば。県に来てもらわなくちゃわからない話なの。

○小林部長 今回恐らく鬼怒川緊急プロジェクトで行っている事業というのは、利根川鬼怒川の直轄の部分ですので、鬼怒川の堤防の河道の掘削だとかと合わせて、八間掘川については決壊した場所というふうに伺っておりますので、その他についても話としては十分の一の河道を広げるという工事をやるというのを聞いてはおりますが、詳しい内容については県の方でないとわからない部分であると。

○委員長 ああそうですか。それは、その辺のことも大事なことだよね。八間掘が3箇所も決壊しているわけですから、それによって洪水を起こした部分があったわけですから。その辺は、どこを呼んだ方がいいかで、そこをよく検討してください。事務局。

○議会事務局長 国交省とは別個にということになりますか。

○委員長 別個になりますよね。

○議会事務局長 とりあえずは分けて考えるということでよろしいですか。

○委員長 そうしてください。

○大澤委員 要するに相平橋から下流は、たとえば河川の補強として、法面の補強をコンクリートで工事しているわけですから、具体的に川上が決壊したところの上流の方は、どういうふうな施工方法でやるのかとか。そういういった具体的なものが見えないので。

○委員長 確かに一秒間に7トンも排水できる機場が3台動けばね、1分間に420トンもの水を排水するわけですから、排水機場が動いていれば確かにこんなことにはならなかつた。早い水が水害になるようなことはならなかつたのかなと考えますね。

○遠藤委員 やっぱり予想外なんだとは思うんですけども、これから同じことが起こることを前提に考えれば、地元としては八間掘をもう少し深くする広くすると。それで排水機場を整備して、今までの田んぼの用水路じゃなくて、災害時の河川として改修しなおしてもらいたいというのが希望ですよね。壊れた箇所を直すんじゃなくて、これから異常気象の中のゲリラ豪雨に対応するために、八間掘川をきちんとした水路として改修してもらいたいっていうのが、市街地に住む私達の大きな要望です。小貝川も使って排水すると。小貝川を単なる農業用排水路のように使うのではなくて、鬼怒川と小貝川を両方使って排水する水路をきちんと市内に整備してもらいたいという希望はあります。

○委員長 ただいま、いろいろなご意見いただいております、10項目近くいただいたと思いますから、これらに対して八間につきましては国交省ってわけにはいかないですから、八間の関連した河川管理の方や仕事をお願いするということで。今お願ひした内容のほとんどの部分は、国交省の方でお願いをして日程も調整をさせていただくということでおきたいと思いますので、その辺はご理解をいただきたいと思います。以上で、国交省の依頼の内容についてはこれで閉めたいと思います。今日はこの前の資料、市から提出されてありました資料、全部終わったわけではございません。災害対策本部の合同対策本部とか構成のメンバー。メンバーはこの前提出なかつたんでしたかね。災害対策本部のメンバー。皆さんのお手元に配布されていますよね。それでは、災害対策本部のメンバー一覧は皆さんに配布されているということですから、これはいいですか。市民生活部長、このことは配布済みであるわけですから。あとはこの前資料を提出していただいておりますが、災害対策本部とか合同対策本部の議事録等のことは市民生活部長の方から説明いただいた方がよろしいですか。この前説明はいただいたんだよね。須藤部長どうですか。今の対策本部と合同対策本部の議事録ということは特別ないですか。

○須藤部長 はい。申し訳ございませんが、存在しません。

○委員長 ない。

○須藤部長 ありません。

○委員長 それではですね、若宮戸地区と三坂地区における消防とか警察の配置及び物資の調達についてというは、これは大丈夫ですね。

○関委員 対策本部で、話の進行によってシートに書いたのを写真に撮ってあるんじゃないですか。

○須藤部長 写真に撮ったものはございます。

○関委員 それをたたき台にしておこすってことは不可能。それをできないとなると、ないって言って通る話ではないと思うんですけども。ないからない。作れない。そういうことじゃないと思うんですけど。どうなんですかその辺、写真として存在するのであれば。

○須藤部長 お手元に渡ってるかとは思うんですが、この前回、前々回も使いました時系列でホットライン何時何分とか。これは、ホワイトボードに書かれたものを基に作ったものがこちらになります。ですから、議事録はございませんが、それに代わる対策本部として出せる限界の資料がこれということでございます。

○委員長 記録は特にないと。

○須藤部長 はい。ですから、ホワイトボードとか紙に書かれたものをまとめたものがこれ、というふうにご理解いただければと思います。

○中村委員 すいません。関委員の話とあれなんだけれど、時間的に私もそこにいたんで、あなたが書いたものを全部写真にとつてあるってこと。

○須藤部長 いえ。ですから、写真に撮ったものをきれいに整理して、時系列にしたものがこれということです。

○中村委員 時間的に写して、消したら次に書いたものをまた写真で写して、全部取

つてあるってことですね。

○委員長 いや、整理してないってこと。

○中村委員 写真に撮ったってことは、ボード3つくらいしかなかったから、そのボードに新たに消して書いている時に、それを全部写しているのかなというふうに聞いてるんです。

○須藤部長 基本ですけど、消す前に写真にして記録というか…

○中村委員 消す前に写真にしているのね。

○須藤部長 はい。それをつなぎ合わせて…

○中村委員 それは残っているということね。

○須藤部長 写真はあります。

○中村委員 消す前に写して、次書いてっていうことね。

○須藤部長 消してしまったものはございませんが、あるいは紙で…。

○堀越委員 委員長いいですか。内閣府の資料いただくと、このことを指示しなさい、ここをやりなさいというのが出るんですよね、あの時間帯の中で。だけど、常総市のやつは時系列も本部の会議で何を決めたのか、何が必要なのかとか、時間的にこう言ったのが、命令を下したっていうのが全然わからないんだけれども。そういう会議でやった決まったことについての指示っていう、そういう体制はとっていなかつたんでしょうかね。

○委員長 はい…。

○堀越委員 それはひとつの命令になるわけでしょう。だから、国から言われたホットラインの内容だけじゃなくて、それを受けた形で本部体制がどう指示をしたのか。そこが大事なんだと思うんだけれど、それが全然見えないんだよね。

○委員長 大澤委員。

○大澤委員 加えてですけれども、そのホットラインとは別に、それを基に確か一日三回の会議をやっていたと思うんです。朝昼晩と。その時の議事録が、最初の頃のはないという認識だったんですけど。その辺を教えていただきたいんですけど、いつの分までがなくて、いつからがあるのかと。あれば公表していただきたい。その辺についてお願ひいたします。

○須藤部長 私、一般質問でそのように答えた記憶がございます。その時には、きちんとした会議録がないというのは、その時点ではっきりわかつていました。それプラス、このような書かれたものが本当に最初の頃は、本当に断片的なのかなと思ったんです。それである程度あったんですけども、私もその程度しか記憶がないことだったんですけど。その後もあるのは、ボードに書かれた記録、これくらいかなと思っていました。ですから、私的には当日の記録が、私以上には記録されていたんだなとは思っています。恥ずかしい話ですけれども。もっと少ないのかなと思っていました。

○大澤委員 実際、会議やられた議事録はないと。

○須藤部長 無いです。

○大澤委員 最初から最後までないということで。

○須藤部長 はい。

○委員長 はい。この前資料いただいてある中で、その若宮戸と三坂の警察とか消防とかと打ち合わせした内容。その報告も資料あるんですよね。いいですか。今意見が出来まして、資料と議事録については記録されたものがないということになりました。先に出ます。若宮戸の問題と三坂の問題。こういったものについての警察と消防ですか、これらとの関係の中で物資の調達についてということで。これは災害の起きた後の話になってくるわけですが、これらについての報告については出してもらったんでしたかな。せっかくですから、説明してください。資料があるわけですから。配置図。いいですか。資料があればそれ…。はい。

○中島委員 会議録がないってことは、何をやって何を決めて、どういうふうに指示したかということが何も残っていないってことでしょう。だから何を決めたのかもわからないことですよ。朝昼晩、朝昼晩とずっと会議をやっていて、何を決めたのかそれさえわからないんですよ、実際。聞いたって何も答えられないんじゃないの、はつきり言ってここで。

○委員長 どうですか、今の言われていることですよね。

○中島委員 何にも記録もないんじや、何を決めたのかも、それすらも…。記録に残っていないんじや、指示したことも分からぬんじやないの。何を指示したんだか。

○中村委員 記憶にも残っていないよ、きっと。

○中島委員 記憶もないし、記録もないし、場当たり的にやっていたというだけでしょう。

○委員長 今言わたることは確かに、会議録は残っていない、記憶はどんどんなくなりますから。会議録がいかに重要かという話になってきて、それがすべての証拠になってくると思いますが、それらが無いんだよということを今言わせてましたから。そうなってくるとどうするんだと、何もならないよということを意見として出されたわけですね。

○中島委員 いいですか委員長。何もないといって、今、閔委員が言いましたけど、何もないじやすまないでしょという話となっていたわけだけれども。現実にどういうふうな指示を出したのかということも残っていないんですよ。防災計画とかそういうものは一体どうなっているのか。それに防災計画に基づいてどういうふうに市役所の職員が動かなくちゃいけないのか、あらかじめ決まっているはずなんだけども、それさえもまるっきり守られていないし、すべてがめちゃくちゃになっていると。それしか現実に分からない。何を聞いたって、正確な答えが返ってこないのが現状じゃないですか。

○委員長 記録だと録音方式とかもあるが、今回は全くないと。

○須藤部長 ありません。

○委員長 はい。閔委員。

○閔委員 無いという一言で、すべて片づけていることがもの凄く多いような気がするんですけど。実際、放送の依頼書から上三坂の指示が抜けていたということも、何故抜けたかが分からぬ。これ何百人の手を渡って放送されたわけじゃないと思うんですよね。たらねばになってしまふんですけども、再三皆さん言っていますが、

指示が出ていたら、出せていたら、栗田さん亡くならなかつたんじやないかなということまで言われています。これ災害によって、死亡者ゼロと一というのは全く違うと思います。二人三人と数が増えていくことは重大なことかも知れません。けど、それよりも、ゼロか一か。一という人数がついてしまう、このことをどれだけ重く受け止めているか。わからない。いつの間にか抜けていた。これでは済まないとと思うので、これは実際にかかわった人間は限られると思いますよね。安全安心課なのか、対策本部から出た指示を誰が持つて行ったか。これだけはしっかりと確認して、犯人捜しをするわけではないんですけども。これ分からなかつたら、また次同じように指示もれますよ。犯人探しをして、その人を吊し上げるわけではなくて、何故抜けたのか、抜けないようにするにはどうするのか。そういうことをしないと検証委員会の意味ないですよね。これ、早急に、誰の手をどうわたって、指示がどう抜けたか。出してください。

○委員長 今、閔委員から話がありましたが、これは上三坂の避難の指示がなかつたということですね。指示は災害対策本部の方からはしてあると、ただ放送がされなかつたと。放送されなかつたということは、犯人では済まないよと。誰がそういうふうになって、指示をしたにもかかわらず、末端では実際にこういう行動されないということがいかに大きい問題なのかということを認識してもらわなければならぬし、何故そうなったかということを、何人もの人の手は経てないと思うんですね、おそらく。そこで二人か三人かの話になってくるのではないかと思うんですが、何故そうなったんだということが、いかに責任的に重い問題になる。ただ、その人をいじめるためにやるんじゃないと。今後にまたこの様なことがあつたとすれば、事は大変重大なことになるということを改めて認識してもらわなければならぬ大事な部分だよね。そういうふうに思いますから、その辺の検証も私達の役目になってきますが、そちらの報告がなければ私達の話も先に進みませんから、大変でもその辺だけは明らかにしていただきたいようにお願いします。

○閔委員 だからこそ、その対策本部としての議事録がないというだけで済むのではなくて、どこでどういう話がされて、どういう指示がされたのか。その指示が正しかったか間違っていたのか。ベターなのかベストなのか。というところになってくると思うんですけど、それすらも分からぬ、検証できない。これではまた同じ災害が起きたら、同じような被害ですよ。末端の職員が、汗水流して泥にまみれて、避難所で避難してきた方からつるし上げられて、市は何をやってくれるんだとか文句を言われている間、この対策本部に加わっているメンバーのほとんどが部長さん以上でしうけれども、その方達が何時間も会議室に詰めて、何をやつたかもわからない、これでどうやって下の職員に俺達はやつていたと胸が張れるんですか。市長はやつたやつたといっていますけれども、そうじゃないですよね。残っていなかつたら、何もやつたじや信じられないですあの状況の中で。私も避難所に何回か携わりましたけれども、避難してきた方が今どうなっているかがわからない、何故なにも発表してくれないんだ。市の職員に確認しても何もわかりません。こういうのが何回もありました。ただでさえ不安になって避難をしてきている方、いつ戻れるんだと言っている避難者に何

の話もできない職員、これほど空しいことはなかったと思います。だからこそ、どうことをやっていたかというのを出すだけで違うと思うんですよね。そのやった人達の思いであったり、被災した方の思ひっていうのも。今、市に対して不満や文句しかないです。それをもし示せるんであれば、そこもまた改善していけるじゃないかな、そういう方向にもつながるんじゃないかなと思うんですよね。ただただ、悪い悪いというだけではなくて。汚名返上というと変かもしれないけれど、やっぱり必要な部分というのは、記憶をたどって時間は多少かかるにしても、いた人数は限られると思うので、何とか頑張っていただければと思うんですけれども。

○委員長 今言われていること大変大事なことなんですよね。確かに分かりませんで事が全部済んでしまうのであれば、分かりませんでしたという回答でしかないわけですが、それは解明する事実とか検証にはならないんですね。確かに、分かりません分かりませんの話では困ると。聞き取りしている側の立場としてみれば、そういうことを申し上げるほかない。

○堀越委員 その点で教訓的なのは、東電が電気を16日には回復しますということを会議の中で出したよね。その時に部長は、水道はそうはいきません。こう言ったんですよね。その後、我々の所に電話がばんばんかかってきたのは、何日に復旧するんだと、9月末には復旧できますと言ったら、馬鹿野郎と言われてね。何日にするのがお前らの役目じゃないかと言われるんですよ。それで我々も大変苦労したんですけども。実際に復旧する時にいつ頃というのは、本部の姿勢としてはまずいと思う。東電が一生懸命やったのは、可能性があつたわけですね。だからあちこちから技術者集めて、一生懸命やったと。でも、三坂では不服があったわけだよね。総理大臣が来るからと言って、工事していた所をここはやらぬでいいから向こうをやれと言われて退かされた。それで現実にそこに総理大臣が来たのかというと来なかつたんだよね。対岸から見ていたと。だから三坂では、相当批判があるんだけれども。いずれにしても、そういう復興にあたっての希望を与えなければいけないわけだよね。だから、東電が16日には完全に復旧させますと言ったことに対して、市の方は、水道はそうはいかないんだというふうに言ってしまうと、我々も要求を受けた時に9月いっぱいと言った時に、それは市民に対して親切な話ではないんだよね。そんないい加減なことで済まされるのかと、何箇所からも私も言われて。頑張ってくれよと、こう言うしかないわけだよね。それは市民にとっては、目標を決めるというか。それは電気が回復したからといって、水道は衛生関連とかすぐにはいかないよというのは分かる。だけど、それをやってまでも何日までにはやるというような事は、行政の努力目標じゃないですかね。

○中島委員 そうとは思わないんだけれども俺は。

○堀越委員 そうかね。

○中島委員 だって、あの状況で水道を復旧させるってどういう方法があるかというのも、現時点では水道事業所が水没しちゃっているわけでしょう。水没しちゃっている中で、モーターも全部ダメ、ポンプもダメ。それで検水も持ってこれない。そういう状況で、いつまでにやりますと言ってもそれは無理だと思う。いち役所が、決定して

答え出せるだけの能力がない。そんなこと言ってもそれは無理だよ。責める方は、それで責められるかもしれないけれども、俺はあそこの状況を見てきて中にも入ってきたけれども、これでいつまでに直せますというのは、いつ部品がどのように届くのかと言われても、この小さい役所に全部それはできない。だから、それは努力目標として何日ぐらいまでにはやりたい。何とかしたいと思っていましたと、努力しますと、それができても何日にはやりますと、東電とは違う東電と役所の規模は違うでしょう。それは責めても無理だと思う。それよりも、さっき言ったようになんでこんなことになつたんだというのをきちんとね、そのためにはどうしたらいいんだということをきちんとやっていった方がいいと思う。でないと、何やっているんだ馬鹿野郎の世界になつてしまふから、それではだめだと思う。何故そういうことになつたってことなら、いつまでにこれを解決していくかということをこれからはちゃんと出していかなくてはならないと思う。

○委員長 はい、分かりました。堀越委員の言ったことと、中島委員の言われたことはちょっと違った内容だけれども、いつ復旧するかと言ってくれればどんなに安心するかという話は分かりますよ。しかし、すべてに対して見通しがないものを言うわけにはいかない。それだけの力もない常総市の水道ですから、電気の東電とは違いますよという話が出たかもしれないけれども。小林部長どうですか、今の話こういったことで、どちらも大事なことですよこの話は。役所として指摘されていることたくさんありますよね。これらは当然反省していかなくちゃならないんですが、報告もしてもらわなくてはならないんですよ、こちらの立場としては。

○中島委員 委員長、私が言いたいのは一番大切なのは、関委員も堀越委員も言っているように、正確な情報を災害時にどのように市民に発信しているかということなんですよ。そうすると今回避難所になっている所、避難場所じゃないですよ。避難所になっていた所に、役所と連携するための通信手段もないし、情報を取るための方法が全然ない。本当に怖いと思ったのは、避難した人達が帰ろうとした。本当に、大丈夫だろうと。あの時、関委員もいたからあれだけれども、今帰ったら帰ってこられなくなっちゃうからと言って止めたの。そうしたら、数時間後には完全水没しちゃって、あの時帰ったら帰れなかった、車で帰っていたら車もだめになっちゃったと。そういう話をちゃんと聞いている。だから、避難場所とか避難している人たちに、いかに正確な情報を行政側が届けることができるかと。そういうことをこれからちゃんとやってかなくてはいけないということを役所が認識していくかどうかの問題。

○委員長 はい。そういう話が出ましたが、確かに正確な情報が届けば対応できるわけだから。その情報源が、ちゃんと被災地とか避難場所に届いてなければ、それは迷っているだけの話ですからね。電気だって水道だって同じですよね。見通しがつけばいい話ですから、まったく分からぬままでは済まないですよね。どうですか、発言してください。

○小林部長 それでは水道に関してでございますが、ただいま両委員からもお話を伺いまして、確かに希望を与える意味ではそういうのは必要なかも知れませんが、中島委員からお話がありましたように、一つの努力目標だけを示して、逆にその日にまとま

らなかつた場合の影響を考えたりすると、やはり正確な情報を出すというのが一番正しい選択なのかなというふうには思っておりました。その当時、正確な情報をつかむための努力はさせていただいたのですが、先ほど来ありますように水道事業所がかなり水没していた影響もあって、なかなかそれの正確な情報がつかめなかつた点はあるかと思います。今後、水道事業所については電装関係を2階に移したというような、もし水没したとしても最悪いつまでも水は止まらないような、そういう方向で復旧作業を行っておりますので、そういうことでご理解願いたいと思います。よろしくお願ひします。以上です。

○委員長 水道の件については、過去の東日本大震災の時なんかも石下の方は県西用水が九割、地下水が一割とかという話も出てましたね。そのために水道が一週間くらい使えなかつたですね。今回は逆に地下水がある方が有利になつたわけですか。今回は、県西用水の方がストップかかっても地下水というか。水道用水と言つても井戸は雑菌が入つてしまつてほとんど使えなかつたよね。だからそういったことがあるから、その辺の判断はなかなか難しいと思うんだけれどもね。

○小林部長 今回は検水で対応させていただいております。井戸水については当初対応しておりません。全部検査をして、合格した後、井戸水については切り替えしております。

○委員長 はい、遠藤委員。

○遠藤委員 話を元に戻して申し訳ないんですけども。情報の伝達、市民が情報の伝達を受けるものはホームページ、ツイッター、防災無線と三つありますよね。前回の話では、ツイッターでも上三坂の指示は落ちていたと。防災無線でも上三坂の指示が落ちていた。だから、やっぱり対策本部の中で上三坂落ちていたんじゃないですかって質問したら、一枚の紙でやり取りをしているからそういう結果になつたんだと。要するに、ツイッターで見た紙とその紙を防災無線の所に持つて行ってやる。一枚の紙で情報伝達をしているから、情報が落ちて、別々にツイッターの人には紙を渡して、防災無線の人に紙を渡してというのじゃないから、まあそういう一枚の紙でやっているから、決定した事項はきちんと上三坂も入つてたんだと。ただ、書いた紙の情報がツイッターにも防災無線にも違つたから、一枚の紙でやつたから、というようなことを説明受けたんですけども。私これ全部、防災無線とツイッターとホームページとっていう時間を見ていくと、これはそれぞれの状況によってばらばらなんですよ。だから情報が一連の中で、まず災害対策本部の中で、本部の席の裏でツイッター打つ人がいるわけですよね。だから、私の考えではツイッター打つ人が一番になると思うんですよ。情報流す上でね。その次が防災無線かホームページってなっていくと思うんですけども、この時間帯がその無線の流している時でばらばらなんですよ。ツイッターが早いのもあれば、防災無線が早いのもあれば、ホームページが早いのもあるんですよね。その問題の上三坂の所に関しては、これ後で確認してください。防災無線が10時31分になっているでしょう。ツイッターが10時37分33秒。ホームページが10時30分ちょうどなんですよ。そうすると何が早く、何が遅いかがね、それぞれの無線の所で全部ばらばら。

○中村委員 ごめん、ツイッターの時間もう一回言って。

○遠藤委員 ツイッターが10時37分33秒。それで最初の本石下、玉地区の場合は、防災無線が午前2時24分、ツイッターが3時40分52秒、ホームページが2時20分。防災無線よりホームページの方が早いんだよね。いろいろな所で三者三様なんですよ。防災無線が流れている時間と、ツイッターの時間と、ホームページの時間が全部ばらばらなのこれ。だから情報の伝達としては、ばらばらなんですよね。全部の状態で、全部雰囲気で流しているわけじゃないし、アップする時間もそれぞれ違うと。だから、それも情報がきちんと流れていたのかなということも疑わざる負えない。

○委員長 どうなんですか。そのばらばらについては。

○須藤部長 基本順番としましては、防災無線が一番です。その次にホームページ。その次にツイッターです。

○遠藤委員 防災無線。ツイッター。

○須藤部長 いや。防災無線、ホームページ、ツイッター。流れから申し上げますと、防災無線の原稿がございます。そちらのものがホームページにいて、ホームページを流した後にその原稿を基にツイッターでうつと、そういう流れになります。

○遠藤委員 そうすると、なんでこういう時間のずれがいろいろ出てきちゃっているんですか。

○須藤部長 その入力した職員によることだと思うんですが。防災無線は安全安心課、ホームページ、ツイッターについては情報政策課。

(・・・不規則発言多數・・・)

○須藤部長 ですから、このあり方がいいのかどうかということは、今後は検討します。今までのやり方はその体制です。

○遠藤委員 世代間にもギャップはあるかとは思うんだけども、やっぱり私達が何を信じるかというとツイッター信じる人が一番多いですよね。

○須藤部長 ツイッターは本部ではやっておりません。情報政策課の方でやっております。

○遠藤委員 あそこで座って流していた人はホームページなんですか。

○須藤部長 いや、ホームページは別です。

○遠藤委員 じゃあ、あの人は何をしていたんですか。

○須藤部長 どの職員を言っているかわからないのですが、そこではストレートに本部のデータは流しておりません。

○遠藤委員 あの方は記録していた人ですか。

○須藤部長 記録ではありません。記録として残っておりません。パソコンを使って何かをしていましたんだとは思いますが。

○遠藤委員 じゃあ、その人が何をしていたか知りたいんですよね。かなり情報を流していたように思う。ずっと記録していた、そばにいて、ああしろこうしろって指示を出されて。

○須藤部長 ホームページで調べていたのか、情報を収集していたのか分かりません。

○遠藤委員 何課の誰ですか。

○須藤部長 どの職員言われているのか、私も分からんないです。

○遠藤委員 何課の誰かもわからんのですか。市長が一番市長室のそばに座ってた。一番奥の向かって右手側のところ。テレビの画面の脇。そこにずっとやっていた人がいた。

○須藤部長 市の職員ですか。

○遠藤委員 市の職員ですね。作業服着てやっていた。

○関委員 パソコン2台じゃないですか。二人いた人。

○委員長 暫時休憩します。15分から再開します。

休 憩 11時05分

再 開 11時15分

○委員長 それでは再開します。情報問題、今たくさん出ました。しかも、情報についても不明確な部分がたくさんあるし、納得できないところもございました。中村委員からの発言…、情報問題ですね。それでは発言してください。防災無線の放送の仕方に問題があるんだという部分の話ありましたよね。

○中村委員 防災無線なんすけれど、避難勧告、避難指示というのは一般の人には、ほとんど何の事だかわからないと思うんですよね。ただいま、何々地区に避難指示が出されました。だから何なの、どうしたらいいの、と全く分からない。ましてや、逃げる準備もしていないので、あのシミュレーション七回来ている時に、本当にもう逃げる準備をしてください。はつきりと。逃げる準備をしてください。そして、今度はいつどこへ逃げるのかが今回は混乱しましたよ。川の西地区に逃げてくださいって言われたら、もうみんな混乱しちゃったんだけれど。どこへいつ逃げてくださいって言ってください。避難指示が出されましたじゃなくて。そうでないと本当に防災無線は信頼されなくなっちゃう。何の事だかわからないということになる。

○委員長 はい。確かに今言われた内容、そして防災無線が聞こえにくいとかあります、緊急事態についてはサイレン的な使い分けをしてもらって、どうしてもこれを伝えたいんだということになれば、そういう使は方はできないんですか。

○斎藤課長 そういう使は方はできますので、これから緊急時であれば、よく火事の時にサイレンとかなりますよね。ああいうふうに大きい音を流して、緊急の場合は。

○堀越委員 いいですか。常総市特有の外国人の問題として、ブラジル人がいるわけだよね。今回は全然伝達されなかつたと、分からなかつたと。だいたい我々も避難勧告、避難指示だつて内容的にどんなものがあるかというのは、今回初めてわかつたようなものだけれど。彼らにしてみれば、その言葉自体が分からぬわけだよね。だからひと言、デンジャーと言つてもらえばいいと言つていた。危険だつて。肉声なんだよね。サイレンでもなんでもそうだけれども、やはり危機意識をちゃんと踏まえた上での放送というのは必要だと思う。避難指示しました、はい逃げてくださいって言つても、感覚的に逃げる気にはならないですよね。逆に皆さん土手の越水を見に行って

いるわけですから。うちの方なんか、子供達遊んでいるんですから。というようなことがあって、昔を知っている人達はね、水が出たら絶対近づくんじゃないともの凄い意識は持ってる。若い人はまるっきりないですよね。土手が崩れるなんてことは頭にないんだよね。土手の崩れ方っていうのは、少し崩れんじゃなくて、ドンドンといくからね。その発想というのは、見てのとおり200メートルも崩れているんだから。ああいう状況になるんですよというのをここに住んでいる我々は意識しなくてはならない。そういうことで言葉的にね、ブラジル人だから避難指示しても分からぬ。だから、デンジャーって言ってもらえばいいと。それは真実かなというふうに思うんで、それは我々外国人じゃない人にとっても同じなんですよ。そういう感覚は現場意識として持っていただきたいということですね。情報の大きな教訓の一つとして。

○委員長 はい。今の話ですか、防災無線の話。

○須藤部長 はい。確かに今回では、先ほど課長が言ったように放送の仕方というのはいろいろできるようなんです。あくまでも避難勧告、避難指示の出したかというのは、防災計画にのりとてなんですが、その模範放送的なもので流したと。もっと緊急性のある市民に分かりやすい内容でやるべきだと思っています。ですから、その辺は我々は直しますし、検証の方でもしっかりとしていただければなおさらだと思います。ポルトガル語につきましては、ここで言ってしまうと問題かもしれませんけれども、とてもそこまで気が回らない。日本語で精いっぱい。ですから、その辺も準備が不十分だったというのは本当のことです。その辺もしっかりとやっていかないと漏れてしまう。それもあり得るだろうなと思っています。それも今回、計画とかマニュアルを作るにあたって大事な点かなと思います。そういうしっかりしたマニュアルを作らないと完全には行えない。本当に当日というのは、我々議事録とか録音とか、そこまで全然気が回らないような状況でございましたので、きちんとした練習、机上の練習も必要だと思っていますし、そういうものを踏まえて今後は準備していくかなくてはならない。まずは、そういうものが必要だろうなと思っています。それに向けても漏れがないように反省していくことも必要かなと思っています。

○委員長 教育、指導も大事だよね。はい。

○須藤部長 防災無線については、もっと研究してやっていきたいと思っております。

○委員長 はい、遠藤委員。

○遠藤委員 防災無線は、私本当に聞こえないと。今住んでいて、街内にまだ何言っているか聞こえない。本当に街の人に聞いて歩いたらいいと思うんですけども、本当に聞こえないんですよ。何言っているかさっぱりわからない。災害後も。これは根本的に、家の中で聞ける受信機をきちんと入れるとかということをしないと、何十億かけたって聞こえない無線なんて意味ないですよ。本当に聞こえないと。本当に街の人に調査してみたらいいと思う。絶対に聞こえていません。それともう一つ。逃げてくださいとか避難指示というのもありますけれども、中島委員も議会で発言されているけれども、これ市民の側にも責任はあると身に染みて感じたのは、当月9月10日の9時くらいから12時くらいまで、市のパトロールカーに乗って宣伝カーで言って歩いていたんです。その時に、こちらは防災常総ですと始まったからそれも

省けと。何々町、何々町に避難指示がでていますというのも止めろと言ったの。何々町は言わなくても、私がそのために車に乗っているんだから、すべて道案内するから、避難してくださいだけ言い続けろと言ったんです。水害で避難してくださいだけ言えば、こちらは防災常総です。避難してくださいだけでいいからというふうに言ったんです。ところが、市民は本当に冷ややかだった。私、自分の親にあんた市民を恐怖にさらして何をしているのと言われた。自分の親にまで言われたくらい。ただ八間堀の下で、同じ町内の諏訪町の人で、リュックを背負って逃げてくれた人がいたから、本当にそれだけが救いだった。言っている間に逃げてくれたから。それくらい市民の受け側が危機感がないんですよ、今回の場合。だから、本当に危険だって知らせるには、どういう方法がいいか、行政は本当に真剣に考えなければならぬ。レッドカードが出たらだめだ、イエローカードが出たらだめたみたいにね。本当に逃げなくてはダメなんだと、市民に知らしめるというのは本当に大変だということは身に染みて感じました。

○中島委員 はい、いいですか。今ここにいろいろ問題点について話しているんだけれども、さっきの状況から災害発生後に役所が何をやっていたかというのかは、まあやっていたのはやっていたんだけれども、記録が残っているのとかそういうのではないので、とりあえず分からぬですよ。ひとつひとつ聞いたって、記憶に頼るしかないのです。ただ、結果論として言えば、対応があまり良くなかったということだけは分かるんです。これは確かにね、発災前も後もよくないです。当委員会としてもきちんと発災前と発災後に分けて、何がだめだったのかということを一つ一つ出してね、それに対して役所が今後どういう対応を取っていってくれるのかと。そういうことをしていった方が、非常に可視的なものかと。要するに、防災無線の話も出た、通信情報に関するものも出てる、避難場所に関するものも出てる。これをきちんと一つ一つ分けて、そしてそれについて役所がどう対応すべきかということを委員会として話し合つていかないと、だらだら同じことをやっていってもね、犯人探しをやっているわけではないのだから。結果論としてだめだったことを挙げてもらって、それについての対応策をどうするのかということをこれから建設的にやっていった方が、より可視的な対策ができるのではないかと、そういうふうに考えるのですがどうでしょう。

○委員長 結論的には、そう言った形を取っていくことになりますよね。今は何回聞き取りしても、内容的に満足された内容で放送されたとか、すべてがうまくいったということではなかったと。記録がなかったとか、いろいろな問題が指摘されておりますから、それは現実はこうだったと。こういう形をもって処理をしたり、連絡を放送したというのも必要かなというようなことは、役所も考えなくてはならない。

○遠藤委員 それもそうでしょう。半年になろうとしていますけれども、各部署でだめだった点をどうしようとか。役所の各部署で検討はされているんですか。それとも、私達の検証結果を待っているのか、独自でやっている大学の先生の検証結果を待っているのか。自分達で失敗したことの洗い出しというのはされているんですか、今現在。

○委員長 どうですか。特にやられていないんじゃないですか。

○石塚課長 建設課の方からよろしいでしょうか。

○委員長 はい。

○石塚課長 まず建設課についてはですね、八間掘川が何箇所かございます。以前一月ですか、前回呼ばれた時にも八間堀については樋管の話をさせてもらっております。その後、県と打ち合わせをしまして、まず責任の所在。どちらが管理するのかというのを打ち合わせを何度もさせていただいて、方向的なものを出させていただいている。それと合わせて今後どうするのかということでございますが、樋管の操作等については市の方で開閉をするというような形で、28年度の予算の方にも反映をさせていただいているというような状況でございますので、来年度の予算の審議の時にまたご説明をさせていただくようになるかと思います。

○委員長 樋管については決まったんだ、そういう形で。

○石塚課長 はい。ほぼ合意をするような形でやってございまして、最終的には樋管についてはまだ占用という手続き済んでませんので、その辺をしっかりと引き受けよう。併せてですね、市の方で樋管を操作するということになりますと、水位の状況を河川管理者から情報を入れていただかないと、どの状態で閉めるのかというのも分からぬと、そういうことでは管理もできないということも考えてございますので、十分な打ち合わせをさせていただいて引継ぎをしたいと考えております。

○委員長 江連八間の小貝川の排水機場なんかもみんな市が…。

○石塚課長 そうではなくて、機場については私どもの方ではやりません。あくまでも樋管だけです。機場については…。

○委員長 樋管というと何箇所になってくるのか。

○石塚課長 今、うちの方で打ち合わせをしているものについては八つございます。あと国のものが一つございますので、予算的には九つということで上げさせてもらっております。最終的に私どもの方で考えているのは、市の職員で開け閉めをするというのは不可能かと思いますので、地元の方にお願いをするといった形にしたいと考えております。というのは、現在常総市内鬼怒川小貝川26カ所の樋管がございます。これについても、国からの委託を受けているもの。また、市が独自に管理しなくてはならないもの等がございますので、それにしても樋管の近所の方にお願いをして開閉をしている。というような状況でございますので、同じようにやらさせていただければなと考えております。

○中村委員 委員長。機場はそのまま八間…。

○石塚課長 機場は今の所…。

○小林部長 いや、ちょっとまだはつきりは…。

○中村委員 県に返せばって、みんな言っているんだけれども…。

○茂田委員 いいですか、委員長。

○委員長 はい。

○茂田委員 市民生活部長。ちょっと聞きたいんだけども、まず避難の放送あるよね。あれは自分で歩ける人に向けているんだよね。私がいつも思うことは、体の不自由な人とかお年寄り。よく逃げ遅れて、亡くなったりとか無くてよかったですと思うけど、そこまでは対策していかなかったよね。たぶん近所の人とか、知り合いの人とかがやつ

たと思うんだよね。私、所用があって遅れてきたんですが、避難しろ避難しろと言つて、逃げる場所を言つていなかんだよね。避難できない人もいるわけですよ。お年寄りで車ないとか、歩けないとか。その対策を考えなくてはだめだと思う。そういう場合は、誰が誰の所へ連絡するとか。行き当たりばったりのやり方で、よく行方不明者とか死亡者が出なかつたと不思議でならない。そのところ、市民生活部長言ってもらえる。避難できない人はどうするんだと。

○須藤部長 茂田委員のおっしゃられます弱者の方については、要援護者リストというのがございます。そのリストを基に災害時においては、そういう方を援護するものがございます。完璧ではないんですけども、任意なので、強制力は…。今後はあるのかどうか定かではありませんが、民生員さんですとかそういう方を通じて避難というようなことになりますが、そこまで今回なつたかどうかということは、申し訳ございませんが私どもで十分には把握はしておりません。ただ、そういう方の被害は聞いておりませんので、どうにかなつたのかと…。

○茂田委員 それを言つてゐるんだよ。

○須藤部長 正直、そこまでしか掴んでおりません。

○茂田委員 いいですか。だから部長、あれだけの大災害でなかつたのは奇跡だよ。市ではやっていないんでしょう。これはだめだよ、もうちゃんとマニュアル作つて、こういう場合は誰に連絡するって。その人が遠距離でいけない場合は、次は誰というふうにやっておかないと。したとか、していないとか分からんんだから、指示していられないんだよな。指示したなら、指示したってなるよね。

○須藤部長 責任逃れするわけではないんですけども、部署が福祉部門なので、その辺の詳しい報告は受けてはおりませんので、動きがあつたとは思います。

○中村委員 はい。私、答弁するわけではないけれども、すみませんいいですか。あの東日本大震災があつたんで、自助自助というのはみんな思つてはいたんですね。うちの方は、民生委員さんが一人暮らしの人を逃げてくださいって言つて、みんながどこに逃げたか私の携帯にみんな電話をくれたんです。誰々さんはどこにいましたって。それは自助でした。今言つたように社会福祉課長は、要援護者の人をボランティアセンターに頼んだんですって。助けに行ってください、見に行ってくださいって頼んだら、ボランティアセンターではそれは受けられないと言われたらしくて。私の携帯に社会福祉課長から電話があつて、要援護者の人を助けたいのにボランティアセンターでは対応してくれないので、中村さんからも電話してくださいと言うから、私は電話じゃなく行きました。ノーブル家具の前に。社会福祉課から電話かかってきて、要援護者の人の安否を見てほしいって言つてはいるのに何で誰か対応できないのと言つたら、一人つけて対応しますとなつたんです。

○委員長 なるほど。

○茂田委員 検証ですさんだつたんだから、次からはきちんと網羅しないと。何十人も出ちやうからね。そのための検証だからね、さっき中島委員が言つたように。それだけ頼みますね。

○遠藤委員 今聞いて、部が違うから課が違うから分かりません。それにうんざりし

ているんですよ。いつも言っているの、なぜ横につながって情報が共有できないのか不思議なんだけれども。当日、社会福祉課は課長が避難所に行ってしまって、部下だけが現場に残っていたそうですよ。その人達は何の指示もないけれども、若手は独自の判断で要援護者を確認するのに奔走したという話を聞いてる。私達の方が詳しいといいのはおかしいでしょう。

○須藤部長 私の言葉があれかも知れないんですけれども、報告はあったんだと思います。いろいろな情報が私も入っています、記憶が全部はないんです。部ごとで、最低限の報告はあったと思いますが、私も自分の部の所が占めていますので、分からぬというのは語弊がありましたけれども、本当は把握すべきなのかもしれませんけれども、記憶的には抜けていたのが事実です。

○中島委員 実際は要援護者とかに関してね、自治区内にきちんと情報が送られていれば問題ないなんだけれども、今は個人情報保護ということで、そういう情報を各自治区に渡さないんですよ。私も区長でしょう。区長だから分かるなんだけれども、独居老人で障害持っている方どれくらいますか教えてくださいと役所の方に言っても、役所はそういう情報出しませんので。うちの方でも、自治区内の高齢者の情報を自分達で把握するしかない。それで、私も町内の役員さんに避難をさせてくださいということをお願いしましたけれども。基本的に役所ができないのであれば、区長とかコミュニティーがあるわけですから。そのコミュニティーを使って、避難をしてもらうような方法をね、これは共助ですから。そういうものをきちんと体制を作ってくれればいいなんだけれども、役所が協力をしないんです。そういう体制が問題なんだ。

○委員長 協力しないじゃ済まない、命の問題だもん最後は。

○中島委員 でも協力しない。

○中村委員 三妻は、婦人防火クラブの人がみんな自分で調べてる。

○中島委員 だから自分でやっている。役所が協力してくれないから、自分達でやっている。そういうのがね、はつきり…。

○委員長 これ役所の立場はどうなるのかな。今話していること、個人情報保護法もあるから対応は。

○須藤部長 現時点では個人情報のため、緊急時についてはちょっとわかりませんが。普段からどこにどういう人がいるという情報は出せません。

○遠藤委員 諸訪町はね、自主防災システム市から援助を受けて作ってあるから、それによって独居老人も全部把握しているから。水に浸かりそうな時に区長に電話すれば区長が全部回って、早めに老人は避難させましたって言うくらいだから。やっぱり、市もどこまで関わるかっていうと市の対応としては、自主防災を作ってもらってやるという方向に行くんじゃないかなと。

○中島委員 全部頼んだってできないんだから、せっかくコミュニティーがあるんだからコミュニティーを利用してもらった方がいい。ところが、そういう意識がない。今回みたいに1400人もヘリコプターで吊り下げてもらわなくちゃならなかつたというの、そういう役所側の体制と自治区に対する協力がちゃんとできていないからこうなってしまう。

○委員長 確かに自衛隊のヘリコプターの役割はすごかったよね。4千何百人、両方で。そんなことはふつう考えられない。自衛隊とかは素晴らしい仕事やってくれたよね。そうでなかつたら、死亡はもっとたくさん出ていますよ、間違いなく。そういうことが情報として共有できないで、個人情報保護があるからできないんだと。それが遠藤委員の方は、自主防災組織があるから全部把握しているんだと。これは把握しておいて、何かあった時に使えなければ何にもならない話になってくると思うが、役所の方はどうなってくるんだろうね。

○中島委員 緊急時にきちんとそういう情報を自治区に流して対応してくださいとか、そういうシステムができていないから、持っていたって握っているだけなんだ。今、緊急時にはと言ったでしょう。緊急時に役所からこっちに何も来ないですよ。私の所に何も来ない。同じ区長だから分かる。役所から何の連絡もないですよ、私は自分でやっただけですから。そういうのは、緊急時だったなら災害が発生する状況を区長さんたちに連絡したり、避難させてくださいとかお願いすればいいんですよ。何もやらないですよ、そういう点では。だから…。たまたまなんだよ。要援護者が災害で死亡しなかつたのは。2メートルも水没している所があるんだから、実際に。たまたまなんだよ、本当に奇跡的なんだよ。

○遠藤委員 ただ確認はしたらしいですよ。残った職員で、ぎりぎりまで。

○中村委員 いいですか。遠藤委員の防災組織と区長だった方が防災対策本部を立ち上げたんですけども、根新田も町内の水害対策本部というのがあって、根新田全員にメールを配信できるんですよ。今回は、根新田の水害対策本部におにぎり・パンが大量に届きましたので、必要な方は袋を持って取りに来てください。とか、ボランティアが必要な方は水害対策本部まで。高齢者の人もこのために携帯を買って、メールをほぼ全部届けてあります。メールがこない人は民生委員さんが確実にメールのこない人を把握していて、その人に必ず全部伝えるというシステムを。日本全国でも珍しい…。本当にこれ、本当に…。ボランティアが必要な方は…。

○委員長 組織は水害があった時点で作られたと。

○中村委員 違います、ずっと前から。

○委員長 前から。

○中村委員 町内会の皆さんに一斉に発信できるんです。公民館のゴミを移動するのに人手が足りないので、女性でも出来ますから来てくださいとか。全部これタイムリーに、全員に、町内会全員に。

○委員長 考えたのそれ。

○茂田委員 自分で買うの。

○中村委員 お金は年間100円全員払うんですけども。一回の通信で1,500円ほどかかるんですけども、根新田100軒全員に配信するのに。1,500円ほどかかるのを1軒100円づつ100軒集めて、お金を貯めてやっているんですけども。市長にも話そうとは思っているんですけども、こういう事も出来たら皆さんにもおすすめして、これをやると本当に情報が共有できる。

○堀越委員 いいですか。今言ったように各所で自主防災組織ができるでしょう。こ

れは、地元から自主的にやってほしいということで、前から言っているように政策的にでは無いんだよね。だから、国分寺市のように市が音頭を取って防災の街づくりをすると。そういう事で、あなたの様な防災士を600人ぐらいな規模で作って、各地域でそういう事をやっていくと。そして、良いところを引き上げると。これはどこでもそうらしいんですよね、この本に載っているけれども。この本は教訓的だから読んでほしいんだけども。これは、2012年に起こった和歌山県の事故のことを見事に書いてある。うちの方と同じ、情報は来ない、ばらばらで。市長は自分の娘と奥さんが亡くなっているのに行ったら、お前現場に来ないでなんだという具合に怒られて。大変悔しい思いしながら、よく頑張ったねと言われながらやった所なんだよね。これを読むと、涙なしでは語れない。そういう状況で、そういうものを市が本気になって作ってほしいんですよ。そういう中で防災の運動をやってほしい。ここは鬼怒川と小貝川あるから、いつ起きても不思議じゃない。だから、一般事じゃなくて特別な事として。常総市だからこそ、全国に先駆けてそういうものをやるくらいじゃないとだめなんだよ。そういう事を何回も言っているんだけども。それでも…。まあ、そのうちにりますみたいな事をやっているからこんなになってしまったんだから。そのうちじゃなくて、早くにやること。

○委員長 今、こういった意見が検証委員から出ましたよね。これは、災害対策本部としてもこういった例があったり、いずれにしても小貝川だって鬼怒川だって永遠にあるものですから。絶対的な可能性はある場所なんだよね。そう考えれば、その特異な常総市として災害対策本部としても、よく考えてみたらいいんじゃないですかね。検証後に必ず言われる話ですよ。そういったことが、情報の伝達だととかすべてに対して機能するわけですから。今のままだとすればやりようが無いでしょう。

○遠藤委員 自助に対して援助していくほうが、一番行政側も楽になるし安上がりですむのかなと思うんですよ。

○堀越委員 だから、自助共助、近助と言うんだよ。近助。これが今言われているんだよ。

○中島委員 自助共助に対して、もっと支援をしていく。行政がね。

○遠藤委員 手がいっぱい、間に合わないということが今回分かったんだから、そこを援助した方が、自分達も行政側も楽になるのかなと。

○委員長 情報伝達がいかに大切であったかということが、防災無線の言った言わぬいの話もともかくだけれども。すべて末端のほうにそれがうまく伝わっているか、伝わっていないか。防災無線が聞こえなかったなんて言う話も出ていますから。ですから、そういったことで地域を守っていくことができれば、そのほうがまず間違いない対応できるということだよな。

○中島委員 これだけ、聞こえない聞こえないって言っているんだから、聞こえないところへ行って本当に聞こえないかどうかを検証して、向きがだめなのか、音質がだめなのか。放送するアナウンスする人によって、聞こえる人と聞こえない人がはつきりと出るよ。すごく聞こえづらい声で話す人と、はつきり聞こえる音質で話す人と。だから、話す人を決めておけばいいんじゃないの、聞きやすい人とか。本当だよ。話

す人によっては、すごく聞きづらいんだから。何回も聞こえない聞こえないと言われているんだから、安全安心課も聞こえないと言われている所へ何人かで行って、ちゃんと検証しているんでしょう。

○斎藤課長 しています。それは行っています。

○中島委員 それでも聞こえないと言っているのだから、対策したほうがいい。

○委員長 声の通りやすい人と通りにくい人といろいろあるんだろうね。きっとね…。

○遠藤委員 あとは、家の外と中に立っている時じや全く違うから。本当に合理的にやるんだったら、中でも聞こえる受信機がほしいというのが一番の願い。

○委員長 はい。大変ご意見が出ています。いずれ取りまとめをすることになってくるわけなんですけれども、いろいろな意味で樋管の対応を8箇所9箇所市が管理することになったんですよという話を今出ましたよね。それは初めてなんだ、今聞いた話はね。だから、そういうことはそういうふうになりましたということは、大変大事なことですからね。どことどこが、市が今度担当して市民に委託をして指導していく。そういうことになると思うんだけれども、そうじゃない所はやっぱり今までどおり、たとえば今の問題になった機場。ああいった所は、今までどおり江連八間がやると言ったと。そうすると淡水防除事業だから、田んぼのことしか考えていないような話では、事が済まないわけだから、そういうことになった時に。ああいうふうに一秒間に7トンも排水できる機械が三台もそろっていたって、機械が動かなかつたと、25年も前に一回動かしただけなんだと。あんな話は、水害が起きて今回誰もが知ったわけだよね。管理体制にしても初めて今回教えられたわけですから。そういう意味で、やっぱりそういう内容が今後起きた時には、本当にどこが責任を持ってどういうふうな対応をするんだと、きちんと決めてもらわなければ。予算は出しても仕事はやらないんだという話では、ちょっと理由が成り立たないという話になってくるから。そういう事も考えなくてはならないですよね。時間もほとんどないんですが、先ほどですね、国交省に来ていただく内容をね、茂田委員が来ていない部分でいろいろ決めさせてもらったんです。八項目、九項目ありますね。その項目で、一応お願ひはするという事で、文書でどういったものが聞き取りに大事な部分だと、それを出してくださいと。ということだったものですから、それを聞き取りをしたんですがね。

○茂田委員 いいですか。

○委員長 はい。

○茂田委員 私、歯医者の予約があつて遅れる連絡はしたんですが。そこへ付け加えてもらいたいことは、11月4日に河川局長が来て、平成13年から出水、出る水は住民の要望で危ないから何とかしてくれということは把握していたんですよね。それについて、どうしてやらなかつたのか、それまで聞いてもらえますか。もう1点は、飯塚富雄町長の時のことなんですよね、出水あるから作ってくれと。それから何度か、市のほうと協議したということを述べたんですが。前回の一般質問で、高杉市長に言ったら、全然そういうのは聞いていないというんですよ。石下町と、合併して常総市と、どういう連絡を取つたか。それを提出するように付け加えてくれますか。

○委員長 はい。ひとつは、無堤防の件。

○茂田委員 そうです、あそこね。

○委員長 なんで堤防工事はやられなかつたか。

○茂田委員 はい。平成13年から住民の要望で分かつていていたと言つうんですよ。どうしてやらなかつたかと。あと、市とその間何回か調整したというが、どういう調整をしたか。あと、河川工事は下流からやるんだというんですよ。そんな馬鹿な話はないんです。下流から額面どおり掘つたら、なぜ真ん中の区間を600億かけてやるんだと。言つてることとやつてることが違つだらうと。それを聞いてくれますか。

○委員長 聞いてくださいの話になつたけれども、今回水害が起きてさつきの話も出たんですが。下流から堤防は改修するのが当たり前だと言っておきながら、下流はやつていないと。そういう事が今回の水害に…。

○茂田委員 それ聞いておいてください。

○委員長 はい。大変でもね時間が経ちましたが、執行部の方もいろいろ大変な難しいところがあつたようあります。いずれにしても、今後検証の結果、報告書を作ることになりますから、いろいろな意味で対応の仕方に問題があつたところは指摘せざる負えない部分がでてきます。そういったことで、時間も3月になりますから、間もなく。3月いっぱいということで言つてはいないんですが、市のほうの検証委員会がどういうふうになつてゐるかというの気になるんですよね。検証委員会どうなんですか。学者の皆さん。何回やつたのですか。

○斎藤課長 市のほうの検証委員会なんですけれども、今までに3回会議を開きました。今の状況は、各5名の先生方が自分の分野ごとにいろいろな方からヒアリングをしている状況です。

○委員長 3回目。だから、市のほうの検証委員会は、特定のものに決めて検証しているんですね。我々の部分体も幅が広いですから、そういったことではないのですか。どことどこの部分に対して検証しているんですか。

○斎藤課長 検証はですね、市民の方から関係機関の方。国であつたり県であつたり。あとはNPOの方であつたり、病院関係であつたり、市の内部であつたりとか。幅広く、消防団であつたりとか。

○委員長 はい。そういうことで進めてまいりますが、これは先ほど申し上げましたとおり、相手方の都合によりまして日程は決めさせていただきますのでご理解ください。茂田委員、日程については相手方の都合によりまして対応しますから。

○茂田委員 大丈夫です。分かつていてます。

○委員長 どうも今日は二時間、大変ありがとうございました。

閉　会　11時55分